



「環境首都創造フォーラム 2018 年度 in 京都」プログラム

【フォーラムの趣旨】

2018年夏、西日本大豪雨をはじめとして豪雨が各地を襲いました。また台風が相次いで上陸し強風、高潮などの被害が続出しました。また7月は、猛暑日が最も多く記録された日になってしまいました。このような気候の変化とそれに伴う災害は、日本だけでなく全世界的に激しさを増しています。産業革命以降の気温上昇は1℃を超え、気候変動による壊滅的な被害を予報するには一刻の猶予も残されていない状況です。

これに対応するパリ協定は、採択から1年を待たずに発効しました。また、国連は「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」を全会一致で採択し、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」を掲げました。世界は、まさに脱化石エネルギー時代、持続可能な社会へ向けて大きく舵を切ろうとしています。

これらの世界的な動きは、気候変動、生物多様性などの環境問題をはじめとして、貧困、格差、人権、平和、資源、エネルギー、経済等の諸問題を解決しなければならないという強い決意を示すものといえます。このような課題に取り組まなければならないのは、日本の地域社会も同様であり、地域社会はその変化による社会的影響も大きく受けます。さらに私たちの地域社会には、人口減少、高齢化、雇用の確保、地域の文化や環境の保全など、様々な課題にも取り組む必要があります。

本フォーラムは、このように大きく社会が変わろうとする時代において、環境首都、そして持続可能で豊かな地域社会をめざす自治体首長・職員とNGOメンバー及び研究者が集い、これからを考える場です。セクターを超えて情報共有と建設的な議論を行い、その成果を各地での実践に活かすとともに、活動展開への推進力を創出するために毎年度開催しています。

京都フォーラムは、「持続可能で豊かさのあるレジリエントな地域社会づくりを実現するために(仮題)」をテーマに、環境問題への解決と合わせたSDGsの活用、真の循環型社会構築のための方策など、これからの地域での再生可能エネルギーの推進等についての議論を深め、持続可能で豊かな地域社会、脱炭素社会の実現に向けての必要な政策を明らかにすることを目的に開催します。

《全体スケジュール》

第1部 『市区町村長と環境NGO、専門家によるディスカッション』

2019年1月17日(木)午後1時から午後5時まで

2019年1月18日(金)午前9時15分から12時半まで

第2部 『地域から日本を変える！ 環境先進事例の交流とディスカッション』分科会

2019年1月18日(金)午後1時30分から午後4時40分まで(予定)

《参加対象者》※第1部

- ・市区町村長
- ・自治体職員
- ・環境首都創造NGO全国ネットワーク構成団体メンバー
- ・学識者
- ・関心の高い環境NGO・地域団体等

《参加対象者》※第2部

第1部対象の方に加えて、関心のある地域住民、NPO等

《会場》 しんらん交流館（京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199）

第1部 しんらん交流館大谷ホール

第2部 しんらん交流館大谷ホール、会議室A,B,C

最寄り駅:JR・近鉄京都駅 JR中央口から徒歩12分 新幹線・近鉄改札口から15分

地下鉄:五条駅8番出口より徒歩3分

《主催》 環境首都創造ネットワーク・環境首都創造NGO全国ネットワーク

《協力》 環境自治体会議

※ 本フォーラムの開催費用の一部は、独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成金を使用しています。

《日程・内容》

1月17日（木） 第1部（1日目） 13:00～17:00

全体進行 環境首都創造NGO全国ネットワーク 代表幹事 杵本育生

総合司会 NPO法人環境市民 副代表理事 下村委津子

■市区町村長と環境NGO、専門家によるディスカッション

全体テーマ

「持続可能で豊かさのあるレジリエントな地域社会づくりを実現するために」

12:15 開場

13:00 開会

1. 開会あいさつ

2. 趣旨説明と課題提起

環境首都創造NGO全国ネットワーク代表幹事 杵本育生

3. 市区町村長と環境NGO、専門家によるディスカッション 1

「SDGsとパリ協定の実現に向けて 地域社会はどのように取り組み活かすのか」

事例発表・ミニレクチャー

「地域循環共生圏-日本発の脱炭素化・SDGs構想-の実現に向けて」 [資料A]

環境省総合環境政策統括官 中井徳太郎氏

「気候変動適応を通じた地域づくりと社会転換」 [資料B]

山陽学園大学教授 白井信雄氏

「SDGsとパリ協定ー地域でどう実践するかー」 [資料C]

地球環境戦略研究機関 プログラム・ディレクター 藤野純一氏

「SDGsを活かしたまちづくり ニセコ町の取り組み」 [資料D]

ニセコ町長 片山健也氏

コーディネーター 多治見市長 古川雅典氏、環境市民代表理事 杵本育生

事例発表・ミニレクチャーと参加者によるディスカッションを組み合わせで進行します。途中15分の休憩をはさみ16時45分まで行います。

16:45

4. 本日の議論・成果のまとめ

京都大学名誉教授 松下和夫氏

16:55 本日のディスカッション終了予定
環境首都創造フォーラム第1部第1日は終了

17:10～17:50

■環境首都創造ネットワーク代表者会議 会場：しんらん交流館大谷ホール
ネットワーク参加団体、専門家の会議です。傍聴可能です

17:55～18:10

■自治体政策オリンピックの先進事例表彰 会場：しんらん交流館大谷ホール
環境首都創造NGO全国ネットワーク主催の「自治体政策オリンピック」の先進事例表彰を行います。
ご参列歓迎です。

18:40～

■懇親会 会場：京都ガーデンホテル 1階 彩宴
環境首都創造フォーラム参加者全員を対象とした懇親会です ※ 出席任意・要事前申込み

1月18日（金） 第1部（2日目）9:15～12:30

全体進行 環境首都創造NGO全国ネットワーク 代表幹事 杵本育生
総合司会 NPO 法人環境市民 副代表理事 下村委津子

■市区町村長と環境NGO、専門家によるディスカッション

全体テーマ

「持続可能で豊かさのあるレジリエントな地域社会づくりを実現するために」

9:00 開 場

9:15 開 会

1. 市区町村長と環境NGO、専門家によるディスカッション 2

「真の循環型社会に向けて プラスチックごみ、フードロス、地域活動の担い手継承」

事例発表・ミニレクチャー2

「フードロス・食品ごみ 地域はどのように取り組むか」 [資料F]

京都大学准教授 浅利美鈴氏

「プラスチックリサイクルが直面する大きな壁にどう向き合うか」 [資料G]

京都市ごみ減量推進会議 堀孝弘氏

「真の循環型社会に向けて プラスチックごみ、フードロス、地域活動の担い手継承～豊中市の取り組み事例～」 [資料E]

豊中市環境部減量計画課課長 吉村光章氏

コーディネーター 飯田市長 牧野光朗氏、環境市民代表理事 杵本育生
水DO!ネットワーク代表 環境市民理事 瀬口亮子

事例発表・ミニレクチャーと参加者によるディスカッションを組み合わせで進行します。11時25分まで行います。

11:25

2. 先進事例の発表と交流（自治体政策評価オリンピックから）

事例発表と質疑応答

「住民の思いをつなぐ『食LABO』と『木望のまちプロジェクト』」 [資料H]

福井県池田町副町長 溝口淳 氏

「我ら『環境学習リーダー』～地球の未来を守るのだ！！～」 [資料I]

滝川市市民生活部くらし支援課 係長 大橋晃久氏、主任主事 山本亜希子氏

12:25

3. 第1部 閉会あいさつ

12:30 第1部 閉会

1月18日（金） 第2部 13:30～16:40

■ 『地域から日本を変える！ 環境先進事例の交流とディスカッション』

〈趣旨〉 気候変動、生物多様性をはじめとする地球環境問題が深刻化し、さらには経済の不安定化や社会的格差が広がる現在、私たちの課題は、「地域から持続可能で豊かな社会を築いていくこと」です。そのためには、個々の努力にとどまらない、社会のシステム（仕組み）を、“地域”から変えていく具体的な行動が求められています。私たちの暮らす地域社会は、地球環境保護と、災害に強くかつ良好で持続可能な生活基盤の創出という重要な役割を担っています。

第2部では、2つの分科会で、持続可能な地域社会づくりの参考になる先進的な取り組みや調査研究の発表と、ディスカッション・人的交流をすることにより、各地の取り組みの推進に活かしていくとともに、市区町村長、職員、住民、環境NGO、専門家のネットワークを深めます。

会場 しんらん交流館 大谷ホール、会議室 A,B,C

13:10 開場

13:30 開会

分科会 1 会場：大谷ホール

「地域から、地域に役立つこれからの再生可能エネルギー推進」

事例発表

「島しょ型スマートコミュニティ」 [資料J]

宮古島市 企画政策部エコアイランド推進課エコアイランド推進係長 三上暁 氏

「小さな地域でつくる、小規模木質バイオマス事業」 [資料K]

森のエネルギー研究所 取締役 虎澤裕大 氏

「米子市が取り組む自治体PPS」 [資料L]

米子市 経済部 経済戦略課 産業開拓室長 鶴籠博紀 氏

「ソーラーシェアリング 5 年間の効果と持続可能な農村社会への実践的取り組み」 [資料 M]

(一社)ソーラーシェアリング推進連盟理事 ソーラーシェアリング上総鶴舞代表 高澤真氏

参加者によるディスカッション

コメンテーター 北栄町長 松本昭夫氏 立命館大学教授 ラウパツハ・スミヤ・ヨーク氏

コーディネーター 環境エネルギー政策研究所理事・主任研究員 松原弘直氏

環境市民・市民エネルギーとっとり代表 手塚智子氏

分科会 2 会場：会議室 ABC

「SDGs 持続可能で、災害にも強いレジリエントな地域づくり」

事例発表

「温暖化時代の水害にどう備えるか?-自治体としての覚悟と展望-」 [資料 N]

環境市民理事 前滋賀県知事 嘉田由紀子氏

「地域循環共生をめざす ～滋賀県東近江市の事例～」 [資料 O]

NPO 法人 菜の花プロジェクトネットワーク代表 藤井絢子氏

『『コミュニティ・カーシェアリング』と災害時に車で困らない地域を作る『モビリティ・レジリエンス』』 [資料 P]

日本カーシェアリング協会代表理事 吉澤武彦氏

コメンテーター 法政大学教授 田中充氏、富山大学副学長 中川大氏

コーディネーター くまもと未来ネットワーク副代表理事 原育美氏、

環境自治体会議環境政策研究所理事長 小澤はる奈氏

参加者によるディスカッション

16:20 閉会 フォーラム終了

※ 第 2 部資料は分科会ごとに別冊で用意しています